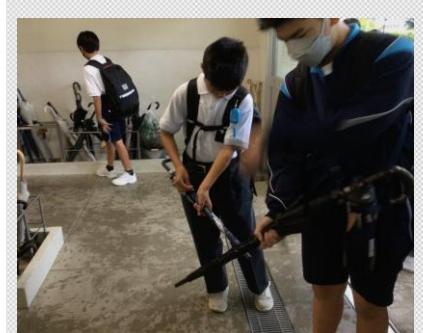


和し鍛え学ぶ

雨の日

今朝の登校時、雨が降っていました。登校してきた1年生の生徒が昇降口で話しかけてきました。「校長先生、おはようございます。自転車置き場から歩いてくるだけで、こんなに髪の毛が濡れてしまいました」。見ると髪の毛は濡れて、背負っているカバンには雨粒がたくさんついています。ほかの生徒も同様で、今朝は「靴下が濡れちゃったね」と言いながら教室に上がっていく生徒たちの姿がありました。

梅雨も後半に入り、ぐずついた天気の日が増えました。



傘を巻く

雨の日の登校は憂鬱です。^{ゆううつ}徒歩通学者は靴下に泥がはねないように気を付けて歩かないといけないし、勢いよく横を通り車が水をはねていくこともあります(思いやり運転や徐行をしてほしいですね)。自転車通学者はというと、カッパを着たり脱いだりする時間が余分にかかりますし、蒸し暑い時期はカッパが肌に張り付いてとても不快に感じます。

大人でも出勤が憂鬱になる雨の朝。そんな日に生徒たちが見せる心配りに、私はいつも感心します。いつ見てもその行動に感動します。その行動とは、昇降口の傘立てに傘を巻いて入れる行動です。雨で濡れ、手には荷物と傘があります。濡れた運動靴を早く脱ぎたいでしょう。教室に早く行って濡れたカバンを置きたいでしょう。傘を巻く手が濡れるので、できればそのまま傘立てに投げ入れてしまいたいでしょう。それなのに生徒たちは淡々と傘を巻くのです。

私は、近くにいた1年生に声を掛けました。「偉いね。^{えら}傘を巻いて傘立てに入れることは誰に教えてもらったの？小学校の先生？こども園の先生？」生徒たちは少し考えて「家で教えてもらいました」と答えました。少し考える表情になったのは、今までそんなことを意識したことがなかったからでしょう。そのことが「身についている」のだとわかりました。

ほかの生徒にも聞いてみました。すると「家で教えてもらいました」「母から、傘を巻くんだと言われました」という答えが返ってきました。

感動しました。素敵なお子さんを育ててくださっている保護者の方がたくさんいらっしゃる学区だと改めて思いました。私が言うのも変ですが、こんな素敵なお子さんを育ててくださり、ありがとうございます。周りのことを気遣って傘を巻けるお子さんは、人として大切なことを身に着けています。間違いないです。

じめじめした雨の昇降口ですが、爽やかな風が心にすうっと吹きぬけるのを感じました。